

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成23年度第2回情報教育研究委員会 議事記録

- I. 日 時：平成24年1月23日(月)午後4時～午後6時
II. 場 所：私学会館（アルカディア市ヶ谷） 7F 白根
III. 参加者：向殿担当理事、村井委員長、斎藤副委員長、武藤委員、大谷委員、渡辺美智子委員、
渡邊隆俊委員、渡辺淳委員(Net)、徐丙鉄委員
企業アドバイザー：マイクロソフト、バンダイナムコゲームス、日立製作所
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 前回の議事録への補足

- ・ 1995年がインターネット元年で、15、16年で20億人になった。今の20億人と10年後の50億人は違うということが視点である。

2. 各委員からのテーマ案について

- ・ 案1として、①新しいネット時代の可能性、②社会変革を迫るネットの時代、③新しいサービスをもたらすネットの時代、④新しいネットの時代の陰の課題が提示された。
- ・ 案2として、ソーシャルコンピューティングと高等教育が提示された。
- ・ 案3として、インターネットの「影」が提示された。
- ・ 案4として、インターネット・メディア論・インターネットと思考が提示された。
- ・ 案5として、コミュニケーションや文化・エンターテインメントコンテンツの重要性が提示された。
- ・ 案6として、インターネットと人との関係について提示された。

3. 事務局から趣旨とテーマ案について

- ・ 現在と未来を見据えて世界・地域社会・組織的な観点、一個人の視点から情報に向かい合っていくことで、なにが起きているのか事象の整理が必要、事象の整理からテーマに入ることとした。光と影の観点から情報の取扱いを点検し、地球規模での共生社会に貢献できるようにフォーラムを位置づける必要があるのではないか。
- ・ 1回目は事象を描くために、おさらい・予測として「ネット社会のユニバーサル化がもたらす光と影を描く」とした。世界的な側面、国・社会的な側面、個人生活的な側面とし、多く語りあってもらう議論の場にして事象の洗い出しをしてはどうか。
- ・ 2回目は事象の洗い出しをした上で、ネットから情報が出されることから「ネットによる情報の発信をどのように受けとめるべきか」とした。題材を元にどう判断、どう行動するか、多面的に意見交流することにしてはどうか。
- ・ 3回目は「ネット社会の安全・安心を求めて何をすべきか」として、リスクの減災、加害・被害防止へ国・企業組織・教育機関・家庭などの役割を考察し、安全安心についてどういうふうを考えるのかにしてはどうか。
- ・ 4回目は「新しい価値観を創造するためのネットの活用を考える」として、ネットは多様な価値観考え方を集める手段になる、社会システムを考えるにしてはどうか。

4. 委員の意見

- ① アカデミズムなので陰系でやってないことは、リスクの定量化。リスクの分析と社会どうつくりだすか解決できる提案。
- ② 人間の心、感性に対する分析ができていない。心のインパクト、アカデミズムの分析など十分でないと考える。
- ③ グローバル社会、地球規模が意味をなすのではないか。
- ④ 文化、芸術、エキスパートの経験が変わる。(例、中国は縦書き新聞が無くなった。縦書き文化) デジタル時代の職人芸について議論できないか。
- ・ 1回目で課題、2回目でメディアコミュニケーション、3回目で文化教育、4回目で創造ではどうか。
- ・ 道具にはメリットデメリットがあり、リスクを先に予測して手を打つ、人間と社会の仕組みと技術でリスクを公開して、ある価値観で取りまとめベネフィットにはリスクあり、情報公開する必要があるだろう。

- ・ 新しい技術でネットの場合は、今後のリスクの評価は難しいのではないかと、明日から違ってくるのではないかと。そのためには、哲学を持つ必要があるのではないかと、哲学は答えがない、考える訓練として大きな問題にならない工夫になるのではないかと。
 - ・ ネットはロジック論理なので、人間の脳の構造にマッチングしない、論理空間について実社会では警察など安定してきたがネットは教育や制度をこれからやっていく必要がある。発展した先のリスクを予め定量的に把握できないので、どういう取組をするか確立する必要がある。
 - ・ 今は知的レベル高くインターネットを利用しているが、今後はだれでも使うので、例えば小学生の利用などの提言など基本の基礎教育などで50億人に広げる。リテラシ教育などとして個人としては目に見えないが行動につながってしまう、食事中に携帯利用の例。
 - ・ リスクとして分析、解決する必要がある、1回目は「課題」「リスク」という言葉を使い、洗い出しではどうか、社会・個人・家庭・心など。3回目に文化、教育をいれてはどうか。
 - ・ 以上のような意見がでて、次回は具体的なアイテムを見ながら議論を継続することにした。
5. 情報の大学入試について
- ・ 情報については、兼務して担当したり入試に絡まないで自習の場合もあると聞いている。
 - ・ 2つの選択なので、共通に学んでくることができないので入試の問題は難しいのではないかと。
 - ・ 知識を教えるから学び方を学ぶ、成人になっても学びつづけることがOECDの考えで、道具を積極的に使う必要がある。デジタル学力テストが2013年から実施される。
 - ・ 国際的水準で子供たちがどうなるのか、世界の子供と協調ワークシップを取れるようになるのか、あきらめるのか。具体的には、10年後の学習指導要領の改訂に反映させる。また、その間10年はどうするのか。
 - ・ 統計の例から、新聞に出たことについては、意見を求めているという意味合いがあるのではないかと。
 - ・ 16年に卒業する生徒に対してメッセージを出す必要がある、試験をどうするのか、模擬試験を3年間やりたい。情報処理学会や学術会議も検討を始めている。高校や塾にメッセージを出すことで入試を行う、ただし、入試問題は教科書からは作成しにくいのではないかと。
 - ・ 高校で教育しなくてはならない情報の位置づけや大学としての目標値。3月にはステートメントで出す必要があるのではないかと。教員養成課程をどうするかも課題と考える。高校の先生を含めて検討したり、有識者集めてフォーラムで実施してはどうかなどの意見が出た。
6. 次回の予定
- ・ 次回委員会日程はメールで調整することにした。
 - ・ 「人口70億人時代のネット社会を創造するためのフォーラム」として2年間で4テーマの実施を検討するため、議論を継続することにした。

以上